

独立行政法人地域医療機能推進機構

第 10 回 二本松病院地域協議会

議 事 録

日時：平成 31 年 2 月 7 日（木）19 時 15 分～20 時 30 分

場所：病院会議室

出席者 加藤 清司（福島県県北保健福祉事務所所長）
土川 研也（安達医師会会長・二本松病院地域協議会委員長）
斎藤 浩樹（医療法人静心会斎藤医院院長・安達医師会副会長・地域協議会副委員長）
本多 弥（二本松市福祉部部長）
中村 哲生（二本松市市民部部長心得）
大津 英孝（安達地方広域行政組合消防本部警防課長）
安齋 英雄（二本松市社会福祉協議会会長）
齋藤 剛志（二本松薬剤師会会長）
渡邊 征一（二本松市岳下区長会 会長）
欠席 矢吹 孝三（二本松市民生児童委員協議会会長）

病院 六角院長・柳沼副院長・大類事務長・安田総看護師長・安齋薬剤科長
渡邊副総看護師長・松坂事務長補佐（総務／経理）・村井事務長補佐（医事）
安部総務係長・後藤経営企画係長（書記）

配布資料・地域協議会式次第

- ・地域協議会委員名簿
- ・第 10 回二本松病院地域協議会資料
- ・概況書（平成 31 年 2 月）
- ・パンフレット
 - *認定看護師活用のお知らせ
 - *産後ディケア
 - *産後ケアセンター
 - *入退院センター開設のお知らせ
 - *全館 LED における電気量および電気代比較表
- ・病院広報誌 「あゆみ 1 月号」

- ・附属介護老人保健施設広報誌 「花かすみ新春号」
- ・JCHOニュース 2019 冬号
- ・二本松病院地域協議会設置規程

議事内容（大類事務長進行）

- ・協議会次第にそって

1. 開会

2. 院長挨拶

本日は、お忙しいところ第10回の二本松病院地域協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

日頃より 地域住民の皆様及び関係機関の皆様のご支援・ご協力に対しあらためて感謝申し上げます。

平成26年4月に新たな組織として地域医療機能推進機構がスタートしてからまもなく5年が経過しようとしております。

平成30年度は機構の中期計画5年間の最終年度でもあり、JCHOの真価が問われることとなります。

機構の中期目標である「地域において必要とされる医療等の提供」を目指し二本松病院は、病院本体をはじめ、健康管理センター、附属介護老人保健施設、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーションが一体となって医療・介護・保健活動を通じて、地域のニーズに応えるべく努力して参りました。

昨年10月には、地域連携室を入退院センターと組織を変更し、入院決定時から住み慣れた地域で継続して生活ができるよう、他職種と協力して入退院に関連したサービスを行い支援するとともに、各医療機関、介護施設等との連携を強化しているところであります。

また、二本松市の委託を受け開設した「産後ケアセンター」は、今年度から本宮市、大玉村との契約を締結し安達地域全域の方が気軽に利用できるようになりました。

そのような中、常勤医師はなかなか確保できない状況が続いておりますが、福島県立医大や、各方面からの協力を得ながら、地域に必要とされる医療機関を目指し、行政、医療機関、介護支援事業所、地域の皆さまなどと連携を取って、更なる充実を図って行きたいと考えております。

本日は、平成30年度の病院運営について、健診部門、老健施設、訪問看護等の状況も併せ、ご報告させていただきます。

より良い病院を目指していくために、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議事（土川安達医師会会長進行）

大類事務長より二本松病院地域協議会資料に添って説明

【平成30年12月までの】

- ・入院、外来患者数状況について（平成31年1月まで）
- ・救急車受け入れ状況・産後ケアについて
- ・健康管理センター受診者実績について
- ・訪問看護／訪問リハビリテーションの状況について
- ・地域連携室件数について
- ・附属介護老人保健施設月別入通所者状況について
- ・二本松第1地域包括支援センターについて
- ・居宅介護支援センターについて
- ・収支状況について

～質疑応答～

：土川安達医師会会長（地域協議会委員長）

外来と入院患者さんの減少を在宅で補っているということでしょうか。

：大類事務長

病院本体だけだと赤字です。病院附属施設等の訪問、老健、健診部門の黒字で補っています。

：土川会長

これから需要が見込まれる事業の収益が充実しているということですね。

：六角院長

国の方策でもありますし在宅医療を充実させなければなりません。

：土川会長

在宅の主治医はいろいろな先生ですか。

：六角院長

そうです。

: 土川会長

いろんな先生の依頼を受けサポートした結果ということですね。

: 六角院長

そうです。お願いされたら引き受けるそのような形でやっています。

: 土川会長

じつは安達医師会が高齢化してきているので在宅医療の充実と言う点に関しては多分2025年までなんとか今の現役世代でがんばれるかなと思いますがそこから先は不安ではあります。

地域の実情に応じてということなので来年再来年と流れをみてやっていくしかないのかなと思います。

施設がん検診は平成30年度までは8月開始でしたが平成31年度から二本松市と本宮市は6月からスタートします。多分検診の数も多くなると思いますがその分大変にはなります。

: 六角院長

早く始まるのは助かります。集中しないで予約を入れることができます。

: 土川会長

その他よろしいでしょうか。

: 安田総看護師長

看護課より情報提供させていただきます。

一点目は地域包括支援センターとタイアップさせながら行っています訪問看護ステーション、訪問リハビリテーションですが地域の皆様が住み慣れた地域でその人らしく最後まで暮らせるような支援を行なえるようスタッフ一同頑張っており活動しております。二点目は前回もお話しました認定看護師についてです。感染の対策に関して専門的な知識を持ち最新の情報を得ておりますので何か心配ごととかありましたら出前講座も出来ますので、お声かけ頂ければと思います。また前は料金を決めていなかったもので、今回より1回5,000円でご活用の程よろしく願いいたします。

次は産後ケアについてです。二本松市、本宮市、大玉村と契約しており安達管内でお産が出来なくなっておりますので、その分お母様の育児の相談、母乳の相談、不安とか体調管理、休養を目的で来られる方もいらっしゃいます。昨年度は月平均5名くらいでなかなか伸びなかったのですが今年度は現在平均で6.6名と微小ですが利用者の数が増えています。そして12月、1月は11名とやっと二桁の数が出てきており二本松市、大玉村よりお申込みを頂いております。周知はまだですが、1回ご利用頂いた方はリピーターとしてまたご利用頂いておりますのでこれからも積極的に受入れていきたいと思っています。産科は無理ですが助産師が対面で対応しながらお母様とお子様のケアをしていますので、これからもっと周知していきますのでどうぞご利用く

ださい。

また前回の会議でお話しましたが、福島県立医大より耳鼻科の先生が月 1 回来られて嚥下の検査を行っています。介護する側がどのような食べ物をどのくらい食べさせたらいのか細かく指導が出来ますのでいつでもご紹介ください。

健診部門は院内健診や健診バスで県内各地を巡回しています。院内では脳ドックの検査を行っています。脳ドックは重大な病気に繋がらない為にも早期発見が必要です。

お問い合わせ頂ければいつでも検査出来ますのでお申込みください。

: 土川会長

他に何かありますか。それでは事務局から何かございますか。

: 大類事務長

LEDについて説明させていただきます。

病院が出来て 25 年、老健は 20 年経過しまして蛍光灯の安定器が古いので器具を交換しなければならなくなりこの際全館をLED化する計画をしたところ、病院老健含めて工事費と器具代で 2,000 万を超えることが分かりました。その金額を一気に支払うのは大変なので何ヵ年で計画しようとしたのですが、そうするとLED化による電力の削減効果が少なくなる為、今回リース契約として全館実施しました。7年契約で毎月 170,000 円程リース代を払っていますが電気代の削減が 11 月は途中から 149,000 円、12 月、1 月は 200,000 円となり業者のリース代を払ったとしても費用が削減できました。蛍光灯の交換の手間は省けましたし全館明るくなり削減効果が出ています。

: 土川会長

ありがとうございました。他にありますか。

: 六角院長

JCHOになって我々の仕事は社会に向けて貢献することが使命となりました。どの程度出来たかわかりませんが、この地域の為に、ある程度貢献出来たのではないかと思います。今後の病院のあり方など考えるとだんだん役割がはっきりしてきて我々のような中小病院は地域の人達の症状を診て、例えば肺炎とか感染症などちょっとした具合が悪い時に受け入れることができる病院としての役目を果たす必要があります。その為には開業医の先生と連携を取り合っていかなければならないと思います。安達医師会の先生方にいろいろご相談しながら進めていきますので今後ともよろしく願いいたします。

: 大津警防課長

消防本部より平成 30 年 1 月～12 月の救急受け入れについて報告させていただきます。全体で 4,113 件です。前年と比較しまして 193 件の増加となっています。搬送人員につきましては 3,903 人、前年との比較で 203 人の増となっております。そのうち二本松病院へ収容依頼した人数が 607 名全体の 15%となっております。近年収容病院には苦

慮しているところですが、積極的に受け入れ頂き本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします。また、救急救命士の研修につきまして本年も受け入れ頂きありがとうございます。

: 土川会長

私も先日入院が必要な患者さんが夕方来院しとても帰せない状況で、あちこちあたったんですが満床ということで断られていたところ、二本松病院に収容して頂きまして本当に「どうぞいらしてください」と言われた時はありがたかったですね。入院が必要な患者さんをどこに送っても満床と言う状況が、もしかすると安達医師会管内でも起こる可能性が少なくないのかなと思います。管外に搬送となりますと病院探しに苦慮しますので今後ともよろしくお願ひします。

: 六角院長

そういう人を遠くの大病院に行くのではなくてある程度この地域の病院で出来ることはここでやらなければならないと思っておりますので、そういうケースがありましたらいつでも依頼してください。

: 土川会長

これで議事を終わります。

: 大類事務長

ありがとうございました。

4、意見交換

: 大類事務長

地域協議会は年2回開催予定です。次年度以降の地域協議会の委員については、問題がなければ今年度と同じ役職の方にお願ひしたいと思いますがいかがでしょうか。

(意義なし)

それでは来年度から引き続きお願ひします。

他に皆様方から何かございますか。

(特になし)

5、閉会のあいさつ

柳沼副院長

本日は皆様お忙しい中、そしてお寒い中お集まり頂きましてありがとうございます。当院は地域医療機能推進機構になり5年立ちました。最初の目標は、5年間地域に根差した医療を目指すということで開業医の先生からの紹介率をアップせよとの本部からの指示でありまして、ここ5年間は地域との連携、医療機関だけではなく老健施設等とも連携を図りながら、訪問医療を充実させるようにし、患者さんが病院に入院し継ぎ目がきれいなような医療を5年間やってきたのかなと思います。今ほぼ介護難民が

なく患者さんにお帰り頂くなり施設に入るなりして頂いている状況となっております。これからの 5 年間の病院目標は急性期病院として救急車の受入れを達成せよという使命がくるのではないかとされています。今回残念ながら救急車の受け入れが減って私ども非常に心苦しいのですが、救急車で受け入れた患者さんにも切れ目なく医療そして介護を提供できるような目標になってくると思いますのでご支援、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。